

中国報告



< 3 >

六月十日午前九時半、私たち訪中団は長江(揚子江)の浩々たる流れと上海郊外の沃野を横肉から感慨深く眺望したのち、上海空港に到着、ロビーの賓室に招かれた。応接した楊殿陸・中国人民対外友好協会上海分会副会長は、開口一番、「四人組」の破壊と「四つの現代化」に触れたが、その観迎挨拶のなかで印象深かったことは、「中国人口はいまや十億を有する」との言葉であった。なぜなら、これまで中国の指導者は「九億の人口」ということばであつても「十億の人口」とはいわなかつたからである。一九五四年以来、人口センサスをしていない中国の人口がどのくらいであるのかは、専門家のあいだでも意見の分れるところであり、すでに十三億に達しているのではないかと推計さえ存在している。

去る六月二十七日、中国国



中嶋 嶺雄 (東京外語大教授)

「四つの現代化」への歩み

回では華国鋒主席が政府活動報告のなかで「結婚、出産年齢に入る男女の数は今世紀最後のかえって困難になるかもしれない。二十年前にならぬ大きな伸びを見せる」と述べ、人口増加率を「翌前後まで下げ、一九八五年には〇・五割にまで下げるよう努力しなければならない」と力説した。しかし、この努力目標

は言わめて厳しいものである。これを「民主化」がすすめるのは、労働者が三交替制で働くからであり、従つて昼間でも働かないでいる人ひとが街頭に

て確認し得たはずである。中国では日曜も夜も工場が動いているのは、労働者が三交替制で働くからであり、従つて昼間でも働かないでいる人ひとが街頭に

ゆっくり早く推進

省力化、労働雇用もからみ複雑

政策がきわめて複雑な曲折を経て国家目標になり、それ自身は脱文革の政治戦略であつたことを知らず、「今度は中国市場だ」とばかり一挙にのり出したわが国経営界の夢は中国側の「四つの現代化」調整(三

化というわけには簡単にはゆかないことも自明であつて、この点は中国の指導者自身がすでに自覚しているところである。西安の国棉第四工場(國営西北第四紡績工場)の女性工場長

は、「四つの現代化」を当初のビジョン通りに実現させるた



いまだに人海戦術でダムの日石を築く =長安県王奔人民公社(西安郊外)にて

来するばかりではない。西安郊外の長安県王奔人民公社のダム工事現場を見たときに、鉄線、つるはし、あつち、手押し車で谷をくすしている中国の現実

は、それなりに必要な不可欠な現実なのである。

この点で北京の最後の日本側招宴で佐藤敏夫団長がうした「四つの現代化」の問題点を率直に指摘し、「ゆっくり早く」現代化をすすめるべき中国に

思ひます」と述べたことは、かえつて中国側に大きな感銘を与えたようである。口先きだけの機軸ではなく、お互い問題点を率直に指摘するという姿勢こそ、本物の日中友好に資する道であらう。いかにも本来の新旧由クラフにまわしい佐藤団長の挨拶とその夜の楽しい隆興会の雰囲気は、日本大使館の知人をして「中国側を今回のような訪中に接したのは初めてであり、こんなにはリラックスした招待である」と感嘆せしめたのである。

目につくが、それは仕事が生じいから三交替制なのではなく、逆に余剰労働力が多すぎるために三交替制をとっているのだから、同時に、中国には膨大な潜在的失業人口が存在する」とを意味している。

このような条件のなかで「四つの現代化」をはかつてゆくことには並々な困難が生ずるのである。中国の「四つの現代化」

をもと、日本人の尺度で「近代化」「工業化」と考えたところ

に問題があつたのである。この点で中国では決して「四つの近代化」とはいわずに、あくまでも「四つの現代化」(四个現代化)と呼んでいることの意味について知らねばならな

が、工場幹部は必らず「現代化」の問題点を自覚的であり、最新の設備を外国から導入し省力化をはかるとは表面無